

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">令和7年4月15日</p> <p>東京都知事 殿</p> <p style="text-align: right;">提出者 住 所 東京都大田区城南島2-6-3 氏 名 宮松エスオーシー 株式会社 代表取締役 村松 悠毅</p> <p style="text-align: right;">（法人にあつては、名称及び代表者の氏名） 電話番号 03-5492-8241</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	宮松エスオーシー株式会社 りんかい工場
事業場の所在地	東京都大田区城南島 2-6-3
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	窯業・土石製品製造業
②事業の規模	140.000万円
③従業員数	12人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・コンクリートくず→再生処理業者に委託して、路盤材及び再生砕石を再資源化・汚 泥→再生処理業者に委託して、路盤材及び再生砕石として再資源化

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

工場長(公害防止管理者)・廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認

- ・処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理
- ・委託契約の締結
- ・産業廃棄物管理票の交付、管理
- ・監督官庁への各種報告

↓

製造課課長(公害防止担当者)・廃棄物処理計画の作成

- ・廃棄物管理状況の把握
- ・その他関係する事項

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
	排出量	3566 t	6213 t
	(今後実施する予定の取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
	排出量	3000 t	5600 t
	(今後実施する予定の取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・低炭素・環境配慮型生コンクリート製品に還元 ・残コン、戻りコン有償化に伴い需要家に対する抑制・請求 ・汚泥を再生骨材化し販売促進 			
<ul style="list-style-type: none"> ・低炭素・環境配慮型生コンクリート製品の出荷 ・残コン、戻りコン有償化に伴い需要家に対する抑制・請求の徹底 ・汚泥を再生骨材化し販売拡販 			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	・コンクリートくず
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	・コンクリートくず

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	1198 t	50 t
	(これまでに実施した取組)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・二次製品製作・販売 ・低炭素・環境配慮型コンクリート製品に還元 ・汚泥を再生骨材化し販売 		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	1400 t	100 t
	(これまでに実施した取組)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・二次製品製作（平板、レゴ風ブロック）追加・販売 ・低炭素・環境配慮型コンクリート製品の出荷 ・汚泥を再生骨材化し販売拡販 		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減 量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
	全処理委託量	2368 t	6163 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	2368 t	6163 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
<p>・産業廃棄物を委託できる業者が減りつつあり、受け入れ数量の制限がある現状で、新規に処分業者一社、新規契約を結ぶ。</p>			

【目標】		
産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器等くず (水銀関連除く)	汚泥
全処理委託量	3000 t	5600 t
優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t
再生利用業者への 処理委託量	3000 t	5600 t
認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t
認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)		
<ul style="list-style-type: none"> 再生骨材利用業者への処理委託と販売促進を行いながら、自社でも低炭素・環境配慮型生コンの積極的な出荷に取り組む。 自社で二次製品の種類を増やし製作販売に取り組む。 		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。